



Key
Person

(株) STOCK'S 代表取締役

萩原 優樹

独立起業までに、多岐にわたる整備の技術を全て身につけるために萩原社長はあえて一つの職場にとどまらず、複数の企業で腕を磨いてきた。「これまで整備士一筋で歩み続けてきて気づいたのは、技術を磨くのに“これでもう大丈夫”というゴールはないことです」と語る。その顔には苦勞の陰りは少しもなく、社長は澁瀾と、「もっと上手に、もっと学びたい。今もその一心で勉強を続けています」と続けた。順調に実績を積み上げている現在も、歩みを止めず高みを目指す。社長の進化が『STOCK'S』の止まることのない発展を支えている。

「もっと上手に、もっと学びたい。
その気持ちを常に持ち続けています」

自動車事業を基軸に 新分野にも参入し 多くの人々の笑顔を紡ぐ



複数の会社で整備の技術を培い
満を持して独立起業する

——『STOCK’S』さんは自動車事業をメインに手掛けておられるとか。まずは萩原社長が今のお仕事に就かれるまでの歩みから伺います。

高校在学中にバイクや自動車の魅力に出会い、卒業後は自動車の専門学校に進学しました。そして整備士の資格を取得して大手カーディーラーで整備士として働き始めて以降、この道一筋で歩んできました。

——そちらの会社には何年ほど勤められたのですか。

1年ほどお世話になりました。1年ですから決して偉そうなことは言えませんが、当時、友人が私の勤め先に車を持ち込んでくれた際に、勤めている身ではできることが限られていまして。そのことにもどかしさを感じ、自分の采配で仕事ができればと考えたことから、20代から独立を視野に行動するようになりました。そのため、独立までの10年間

で5社ほどを職場を移りながら、腕を磨いてきたんです。

——一社に根差して技術を磨くより、複数の会社で研鑽を積むことを選べたのは、なぜですか。

整備士の仕事はとても範囲が広く、私はそれら全ての技術を身につけたいと思ったからなんです。たとえば大手カーディーラーでは修理、整備、钣金、タイヤ交換、塗装など様々なサービスを提供しています。ただ、あまり知られていませんが、それらの部門にはそれぞれスペシャリストがいて、分担して仕事をしているのです。一つの会社で働いていると、ある部門の技術は向上させることができても、別の技術はなかなか伸びていかないというケースもあるのです。そこで私は一つの技術に特化した会社に入社して腕を磨かせていただき、また別の会社に移って、別の技術を磨くようにしてきました。そうして一通りの技術を学び、2016年に念願の独立を果たして最初は個人事業としてスタート。自動車の販売や修理をメインに事業を推進し、今後さ



代表取締役
萩原 優樹

らに仕事の幅を広げるために法人改組しました。修業時代も独立した今も仕事が楽しくて、毎日がとても充実しています。

新たな事業にも果敢に挑戦し
さらなる発展を目指す

——先ほど、仕事の幅を広げるために法人改組されたと伺いましたが、具体的にどういったことにチャレンジしておられるのですか。

一つは以前から続けていたハンドメイドギフト事業です。たとえば、浜松では子どもの誕生と、健やかな成長を願い、祝う「浜松まつり」などがあり、お祝いごとを大切にする風習が根強いのです。そこで何かおめでたいことがあった時、少しこだわったお祝いを贈りたいという方に向けて、オリジナルギフトを用意しております。人気なのは、日本酒の一升瓶に文字やイラストを彫るギフトです。これは車の修理などでも使う機材を用いて行うのですが、試しに挑戦してみるとご好評をいただいたことから、このほど

熱意と努力で歩み続ける

萩原社長が念願だった独立起業を果たしたのは2016年。独立する前から「萩原さんだから頼みたい」という顧客がすでについて、企業の看板はないながらも、創業当初から順調に仕事を獲得できたという。そうして業績を伸ばしている今について社長は「決して私だけの力ではなく、周囲の人々が支えてくれたのです」とこれまでを振り返る。

大手企業で仕事の基礎を学んだ整備士時代から、様々な会社で研鑽を積んできた修業時代も、出会った顧客や同僚、上司など周囲の一人ひとりとの縁を大切に紡いできた。「技術畑を歩み続けてきた私は、学より腕と熱意で勝負するしかありません。だから同世代の中でも抜きん出たいという気持ちが人一倍強かったんです」と語る。その負けん気や、顧客のためにも絶対に起業しようという想いが原動力となり、『STOCK’S』の今を形づくったのだろう。今後も社長は誰よりも努力を続け、新分野への参入という大きな夢に向かって歩みを進めていく。

本格的に始動します。

——自動車事業の技術を活かして、全く新たな事業に発展させるアイデアは面白いですね。

ありがとうございます。また、もう一つ新たに展開しようと考えているのは、観葉植物事業です。私は元々南国イメージの建物や雑貨が好きで、自動車事業に関してもアメ車のようなとても雰囲気のある車が好きなんです。皆様にもそういった雰囲気のある車を、もっと気軽に身近に感じてほしく、日本車をアメ車風にカスタマイズしていこうと考えました。そうなると、お客様のガレージにカスタムした車をそのまま置くよりも、せっかくなら非日常的な空間もご提案したいと思いまして。そこでヤシの木といった南国の雰囲気を演出できるものも同時にご提案できればと考え、観葉植物事業に目を向けたのです。

——今、西海岸風やハワイアンが流行していますし、人気が出そうですね！ 今後がますます楽しみです、最後に今後の展望をお聞かせ下さい。

2024年までに自動車事業、ハンドメイド事業、観葉植物事業を軌道に乗せていきたいです。これを実現すれば、その利益を活かして、その後は私共のように事業を始めてみたいという若者たちが店やオフィスとして使えるようなショッピングタウンをつくってみたいです。そこには店やオフィスだけでなく、子どもたちが安心して遊べるスペースもつくり、家族連れで訪れることができる——そんな場所にしたいと思っております。

——街づくりに通じる素敵な目標です。

また他にも、障がい者支援事業に取り組みたいと考えています。以前、特別支援学校の教師をしている友人に誘われて学園祭に遊びに行きまして。その時、彼らのキラキラした目や熱意にふれて、感銘を受けました。「こんなに素晴らしいパワーを持った若者たちが、これからはもっともっと仕事を選べる時代にしたい。その中で一つでも選択肢を増やせたら」と感じたので、ぜひ彼らのサポートができる事業にも着手したいです。

(取材／2019年2月)



株式会社 STOCK'S

静岡県浜松市東区積志町1164-2
URL : <https://www.stock-garage.company>

ゲストコメント

「『さらにお客様に寄り添った対応がしたい』という萩原社長の自動車事業への情熱もさることながら、決して自動車だけにとらわれず、整備の技術やセンスを活かして柔軟に新分野にも挑戦しておられる点に感服しました。常に進化を続ける社長なら、今後の目標である起業を希望する若者や障がいを持つ方々の支援事業も必ず実現されるでしょうね」



ゲスト
板東 英二